

水藩名士肖像図巻



藤田東湖



武田耕雲斎



結城寅寿



佐藤一齋

「水藩名士肖像図巻」は、水戸藩9代藩主徳川斉昭にゆかりのある人物29名の肖像を収めたものです。同じように斉昭ゆかりの藩士を描いたものに斉昭が編さんさせた事典『諸物会要』（公益財団法人徳川ミュージアム所蔵）、「水藩人物肖像」（国立国会図書館蔵。31名の像を収める）がなどがあります。

また、描かれた人数は少ないですが、同じ構図のものとして、武田耕雲斎ら7人の肖像（水戸藩儒者青山延寿旧蔵・本館所蔵）、同じく「三田真像」と称する武田・藤田・戸田の3人を並べた卷子本（武田家蔵）がなどがあります。

さて、「水藩名士肖像図巻」「諸物会要」「水藩人物肖像」は、それぞれ30名前後の肖像を収めていますが、描かれている人物は必ずしも一致したものではなく、この3点を合わせるとのべ44名に及んでいます。また、人物の順番も異なり、たとえば上位3人は「名士」が「藤田東湖・武田耕雲斎・山口頼母」、「諸物」は「藤田主書・近藤儀太夫・小宮山次郎右衛門」、「人物」は「藤田東湖・川瀬七郎衛門・原田兵介」となっています。

これらの原本とみられる「諸物会要」を描いた内藤業昌（寛政5年〈1793〉～嘉永5年〈1852〉）は、斉昭のもとで歩行頭、進物番頭、馬廻頭、10代藩主慶篤のもとで側用人、若年寄と累進しました。斉昭からは当初信頼を得ていたのですが、のちに「姦徒」とされ厳しい批判を浴びています。

かなり写実的に描かれていますが、これにはある方法があったと思われます。その方法は、来年2月からの特別展「肖像画の魅力—歴史を見つめた眼差し—」のなかで紹介する予定です。